



乗車用鹿毛

21 各種馬置物

(競走用栗毛・乗用芦毛・貨車用黒鹿毛・
乗車用鹿毛・農用鹿毛斑)
後藤貞行

五点

明治二十三年(一八九〇)
木彫彩色

競走用栗毛・二〇・〇×六〇・〇×六二・〇
乗用芦毛・二〇・〇×六〇・〇×六五・〇
貨車用黒鹿毛・二〇・〇×六〇・〇×五四・〇
乗車用鹿毛・二〇・〇×六〇・〇×六三・〇
農用鹿毛斑・二〇・〇×六〇・〇×六〇・〇

明治二十三年(一八九〇)の第三回内国勸業博覧会に出
品された五種の馬の置物である。競争用、乗用、貨車用、
乗車用、農用の各種の馬を木彫で表したもので、表面に
は艶のある彩色が施されている。各馬は、漆塗りの台座
に固定され、台座中央には種別と毛並みを記した紙札が
添付されている。『第三回内国勸業博覧会審査報告』によ
れば、各種馬体の概観だけでなく、骨格や体型が正確に
表され、解剖学的な視点による写実性が高い評価を受け
た。同博覧会で宮内省が買上げた後は、明治天皇のお手
許にあつたと考えられ、大正二年(一九一三)にその御遺
物として皇太子(昭和天皇)が引き継がれた品である。

作者の後藤貞行(一八四九―一九〇三)は、和歌山藩士の
家に生まれ、十八歳の時に幕府の騎兵所で騎兵術を学ん
だ。維新後は、明治七年に再び上京して陸軍に入り、以後、
馬の知識を深めながら、西洋画、写真、彫塑、木彫など
の技術を身に付け、馬の姿を正確に表現することを探究
した作家である。明治十六年には前年にハワイ皇帝から
明治天皇に贈られた御料馬雄嶽の模型を銅鑄、木彫でそ
れぞれ制作して宮内省に納め、明治二十一年には御下命
により、御料馬金華山号の姿を銅像で制作する等、宮内
省から依頼を受けて御料馬の彫刻を幾つか手がけた。本
作が制作された明治二十三年、貞行はその木彫の師であ
る高村光雲の薦めにより東京美術学校校雇となり、当時同
校が取り組んでいた「楠木正成像」の原型制作のメンバー
に加わり、特に馬の部分を担当し、「馬の彫刻家」として
の名声を確実にした。



乗用芦毛



競走用栗毛



農用鹿毛斑



貨車用黒鹿毛

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan